

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 3 日
 所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科
 氏 名：石崎直人 職位：准教授
 役 職：

I ティーチャング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

微生物学総論では微生物を構成する細菌・真菌・ウイルスの基礎的なことを学び理解し、説明が出来るようにする。微生物学実習では細菌の操作法を習得し、培養ができるようにする。臨床微生物実習と病原微生物学実習では病原微生物を培養し、菌種の同定ができるようにする。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
臨床微生物学 I	臨床検査技術学科	必	2	93
微生物学総論	食品生命科学科	必	2	62
微生物学総論	環境科学科	必	2	51
微生物学実習	臨床検査技術学科	必	2	92
微生物学実習	食品生命科学科	必	2	62
微生物学実習	環境科学科	必	2	51
臨床微生物学実習	臨床検査技術学科	必	3	83
病原微生物学実習	食品生命科学科	必	2	62
病原微生物学実習	環境科学科	必	3	73
基礎化学実験	臨床検査技術学科	必	1	102
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選	4	76
卒業論文	臨床検査技術学科	選	2～4	18
科学者・研究者論	環境保険学専攻	必	1	20

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

我々は生きていく中で日々病原微生物の脅威にさらされている。メディアでは多剤耐性結核菌、新型コロナウイルス、サル痘ウイルスなどの病原体の名前が多く見かけられる。2023 年 2 月にはギニアにおいて初めてマールブルグウイルス病の症例が報告された。これらの名前を見た時に、なぜ 問題となっているのか、どのように身を守ればよいのかなどを自ら考え、解決法を導くことが出来る人間になってもらいたい。新型コロナウイルスについて

の情報が流されるときに、付随してくる文言に「抗原定性法、mRNA ワクチン、Real-Time PCR 法」等が挙げられる。これらの文言が解らないときには積極的に調べ、自分の肥やしにしてもらいたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

- ・ 授業の最後に小テストを実施し、最低限重要な項目を必ず覚えてもらう。
- ・ 配布資料にはなるべく写真などを多用する。
- ・ 授業は配布資料の穴を埋めながら進める。
- ・ 2 回目以降の授業冒頭では前回の重要な箇所を端的に説明する。

アクティブラーニングについての取組

學理に載せた資料で事前に予習をしてもらう。

ICT の教育への活用

學理を用いて授業を録画し、復習時や定期試験前に活用してもらう。実習では最初に動画を見せ、実際に手を動かしてもらう。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

① 教育（授業，実習）の創意工夫（B）

授業の冒頭に前回の復習を実施する。

② 学生の理解度の把握（A）

小テストの結果で判断をする。

③ 学生の自学自習を促すための工夫（B）

授業で使用する資料を早めに學理にあげ、目を通しておくようにアナウンスをする。

④ 学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

學理またはメールなどでの質問が来たときは、その日のうちに回答をする。

⑤ 双方向授業への工夫（C）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。) 国家試験対策の総合臨床検査学演習において、微生物学分野で特に苦手とする分野である抗菌薬、グラム陰性桿菌および培地を重点的に講義した。*Acinetobacter*、*Haemophilus*、*Moraxella* などの呼吸器感染症は混同しやすいので、カラー写真を多用し説明をした。学生の習得度を見て演習終了後に行う補講に反映した。資料に使用する培地などの写真は自分で培養後に撮影し用いた。

5. 学生授業評価 (分量の目安: 4～7 行 (160 字～280 字))

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

「小テストの出題範囲が授業で習ったこと以外の内容が出て、ネットで調べるのが手間がかかるし、合っているかが不安になる。」との意見が出されたため注意した。

② ①の結果はどうでしたか。

同じようなクレームはなくなったので、改善できたと考えている。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

Meet の接続や録画のミスなどがあった為、この点に注意をして進めたい。

6. 学生の学修成果 (分量の目安: 4～7 行 (160 字～280 字))

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

出題頻度の高い項目をまとめて説明をしたが、併せて国家試験問題を併記し説明をした。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

- ・(座学) 授業の初めなどに、リアルタイムで起こっている微生物のニュースなどを知らせてくれることでより身近に感じられましたし興味が湧きました。
- ・(実習) 微生物実習において大切なことを適切に学べた。これを活かせるように頑張りたい、等の意見をもらった。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安: 1～2 行 (40 字～80 字))

FD 講演会や FD 研修に参加し、授業に反映できるようにした。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

短期的: 国家試験の合格率を 90% 台に戻す。

長期的: 国家試験の合格率を 100% にする。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス、學理を用いた小テスト、配付資料

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

FD プログラムなどへの参加記録

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），